

市長定例記者会見（令和4年5月11日）録

11時30分～11時55分

まず、題材に入ります前に、新型コロナウイルス感染症の感染状況に関しまして、一言申しあげたいと存じます。

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大以降、初めて、全国的に行動制限のないゴールデンウィークであったこともあり、全国同様、本内・本市の観光地や商店街なども、多くの人で賑わっていたものと存じます。

このように、人の移動が増え、交流の機会が多くなったことも要因の一つとして考えられますが、先週7日には、県内で過去最多の510人の新規感染者が確認されております。

本市の新規感染者数も、ゴールデンウィーク明けの6日（金）には、4月26日以来、10日ぶりに200人を超える、201人、7日（土）には、282人と、連日200人を超え、また、8日（日）には、125人、9日（月）には179人と、6日（金）から4日連続で前の週の同じ曜日を上回る状況となっております。

一方、年代別の累積新規感染者数の推移を見ても、依然として若い世代の感染者が多く、5月以降で申しあげますと、20歳代以下の感染者数が、全体の約6割を占めております。特に、ゴールデンウィーク明けには、これらの世代の感染者数が急拡大しており、更なる感染拡大も懸念されるところでございます。

いずれにいたしましても、4月中旬から緩やかながらも減少傾向となっておりますが、ゴールデンウィークに人の動きが増え、また、BA・2への置き換わりも進んでいることから、今後、1週間の感染状況を注視していかなければならないものと存じます。

また、以前に報告させていただきましたが、クラスター防止対策として、今週から、希望する本市所管の高齢者・障がい者施設・事業所577か所に、感染予防ゴーグルを8,523個、抗原検査キットを537箱、順次配付しております。

来週中をめぐりに配付が完了する予定でございますので、併せて、御報告をいたし

ます。

本日は、「新型コロナワクチンの4回目接種について」に1点でございます。

まず、新型コロナワクチンの接種状況につきましては、5月6日時点で、2回目接種を終えた方は、75.9%、また、3回目接種を終えた方は、50.8%でございます。これまで多くの方が接種を終えることができましたのは、地元医師会等関係機関からの多大な御協力の賜物と存じており、改めて心から感謝申し上げます。

ただ、3回目の接種率につきましては、20歳代が、32.5%、30歳代が、36.2%に留まっている状況でございます。

このような中、御承知のとおり、先般、国におきまして、4回目接種の実施方針が示されたところでございますが、本市におきましても、国の方針を踏まえ、新型コロナウイルス感染症による重症化予防を目的に、4回目接種を実施いたします。

まず、対象者につきましては、3回目接種から5か月以上経過した、60歳以上の方と、18歳以上で基礎疾患のある方となっております。

使用するワクチンは、ファイザー社製と、モデルナ社製ワクチンでございます。

接種券につきましては、60歳以上の方と、2回目接種時の予診票で、「基礎疾患を有する」と申告されていた方に発送いたします。

なお、新たに基礎疾患を有した人など、それ以外の基礎疾患のある方につきましては、申請に基づき、接種券を発送する予定としております。

発送スケジュールとしては、5月に3,000人、6月に35,800人などに見込んでおり、来週16日(月)約800件、23日(月)に、約2,200件を発送する予定でございます。6月以降も、毎月2回、発送をいたします。

接種体制といたしましては、これまでと同様に、地元医師会等、関係機関の御協力をいただきながら、個別接種をメインとし、補完的に集団接種を行う予定でございます。現在のところ、個別接種は、5月下旬からの実施を予定しております。

また、集団接種につきましては、5月は、28日(土)と29日(日)の2日間、6月には4日(土)・5日(日)など、計4日間実施いたします。

また、4回目接種の対象者が増えてまいります、7月は、拡充いたしまして、2日（土）・3日（日）など、計7日間、市役所本庁舎13階大会議室や、みんなの病院で実施することとしております。

なお、8月以降の予定につきましては、今後の接種状況等を踏まえながら、実施を検討してまいりたいと存じます。

予約につきましては、集団・個別接種ともに、オンラインと、コールセンターで受け付けをいたします。なお、予約の開始時期につきましては、国において接種開始日が確定次第、改めて御報告させていただきます。

また、個別接種につきましては、電話予約ができる医療機関もございますので、本市ホームページ等で御確認いただきたいと思います。

#### 【記者質問】

##### 【記者】

今年は3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークとなったが、市内観光地のにぎわいなどに対する受け止めは。

##### 【市長】

賑わいについては久しぶりに街に観光地に、賑わいが戻ってきたなということで、率直に嬉しく思っています。今年は平日の飛び石を休むと、連続で10連休の大型連休で、離島において瀬戸内国際芸術祭2022の春会期の期間中ということもあり、本市の主要観光地9地点において入込客を見てみると、昨年を上回る、約10万7,000人の観光客の入込み、昨年と比べて約2.8倍の入込客がありました。コロナ前までには戻っていませんが、それでも7割強入込客があったということで、非常に多くの皆さまに来ていただいたということで喜んでいきます。

特に、屋島につきましては、「四国村」がリニューアルし、「四国村ミュージアム」に新たに整備されております。エントランスホール「おやねさん」が瀬戸芸のアート作品となっており、前年比の2.1倍となる、約24,500人の観光客や家族連れで、にぎわいを見せたところでございます。

ただ、コロナ禍の中でのゴールデンウィークということなので入込客が増えた

だけで喜んでばかりはいられません。一昨年、昨年と、ゴールデンウィーク明け、人流がそれほど多くなかったが感染が拡大し、冒頭でも申し上げましたように、今年については週末には県内で過去最大510名の感染者数が確認されている状況です。従って感染対策もさらに引き締めていかなければならないということで、手洗いやマスクの着用、人と人との距離の確保、またこまめな換気など、基本的な感染防止策の徹底を呼び掛けていかなければならない。また、呼びかけを徹底しなければならぬと思っていますし、ワクチン接種がだいぶ進んできたと言いましたがまだまだ3回目ワクチン、特に若年層で接種率が低いので接種促進などの体制を整えていきたいと考えております。

それと同時に感染防止対策の徹底も必要ですが、ウィズコロナの時期がこれだけ長いと、新たな日常というべき、通常の経済社会経済活動の活性も、これまで以上により軸足を置いて図っていかなければならないと思っています。

長引くコロナ禍によって業種によって大きな違いはありますが、非常に疲弊している、停滞している業種があり、それらについて、例えば公共交通機関や産業・観光・飲食業に関連する業種、また農業も苦しんでいるので、これらの振興を図るために具体的な内容を盛り込んだ補正予算措置を検討しています。

これらによって感染防止と社会経済の活性化の両立を図っていくという方向で進めていきたいと思っております。

#### 【記者】

3回目接種が進んでいない中で、4回目接種を開始することへの受け止めは。

#### 【市長】

3回目接種についてこれまでやってきて全体として半分の以上の方が終えられたということで、それなりには進んできていると思っています。若年層30代20代以下の層についてはまだまだ30%以下と接種率が低い状況にあるので、そのへんについて接種の呼びかけを今後とも必要であろうと思っています。そういう中で4回目接種をお願いしていくということで、情報が入り乱れて混乱をするということも危惧されるため、3回目接種までの呼びかけと4回目接種のご案内をより分かりやすく市民の皆様にご案内していきたいと思っております。

4回目接種については、3回目を打った人で5か月経った人の60歳以上の方、基礎疾患のある方ということで、かなり限定された層に接種をするので、そのへんでピンポイントで情報が届くように色々な配慮をしていきたいと思えます。ホームページ等で情報を的確に通知し、多くの市民の方が受け取って、受けていただける方向で周知していきたいと思えます。若干混乱が起きる可能性はあるので、できるだけ避けるようにやっていきたいと思えます。

【記者】

4回目接種の見通しは。

【市長】

全く見通しは持っていませんが、3回目接種率で1回目2回目よりは低くなっていると言っても、高齢者の接種率は非常に高いので、ワクチン接種によって重症化を防ぎたい、かかりたくないというようなお気持ちを持っている方は多くいらっしゃると思えます。3回目接種までの有効性については確率されています。4回目接種について十分な情報が市民レベルでは届いていない、我々自治体にも有効性と接種の意義についてまだ十分な情報が届いていないので、国に4回目接種の意義と必要性を広報充実するように意見を言っていきたいと思えます。

【記者】

国は段階的に入国者数を緩和する方向で検討に入った。インバウンドも見込まれるがその受け止めは。

【市長】

これだけコロナ禍が長引いていて、今流行しているオミクロン株の特性として、非常に感染力は強いが重症化率は低いです。一方で感染防止対策を徹底し、海外との門戸をこれまで以上に開いていき、経済の活発化活性化する形にしていこうというのが国の方針かと思うので、その方針に基づき、これまでと同様感染防止対策徹底を訴えながら、地域としても対応していきたいと思えます。

【記者】

新型コロナウイルスの感染予防と経済活動回復との両立について、市長の考えは。

【市長】

両立が大きいというか、そのためにもワクチン接種をある程度進めていただき、かからないようにしていただく、感染者数を抑制できるようにしていただく、かかったとしても重症化しない形、そのためにはワクチン接種が非常に有効な手段なので、その意義を我々としても市民の皆さまに訴えていきながら、混乱が起こらないように、3回目接種を促進しながら4回目接種のご案内をしていくということをきちっとやっていきたいと思っています。

【記者】

近県ではまつりの開催を表明しているが、高松まつりは開催するのか。

【市長】

夏の高松まつりは3年前の令和元年度においては台風の襲来によって2日目の花火、3日目の総おどりが中止になっています。一昨年、昨年はコロナ禍によって高松まつり自体が中止になっています。実質3年間高松まつりを行えていない状況です。

市民の皆さまや観光客の皆さまで高松まつりの開催を楽しみにしている方もおられるということで、それらの皆さまのためにはどうにかして、十分な感染対策は必要ですが、それを講じながら開催することはできないだろうかというのが、率直な私自身の気持ちです。

ただ現在のゴールデンウィーク後の感染状況の拡大を見てみると非常に厳しいものがあるというのも1つです。第6波といわれるのが1月中旬に始まり、かなり長期化してきています。夏のお盆の時期まで見通すことはできませんが、もう少しこの状況を見極めた上で、市民の皆さまのご意見も伺いながら、高松まつりの開催等について、まつり振興会とも協議しながら調整しているというのが、現在の状況です。

【記者】

新型コロナウイルス対応による保健所業務のひっ迫状況は。

【市長】

第6波第7波といわれる感染状況の中で、一時期収束しようとしていたのがゴールデンウィーク明けに感染拡大が起こってきているということで、しかも6日には香川県で最多510人感染者が確認されたということです。幸いにして病床占有率はまだまだ低い状況で、重症者もほとんどいない状況で、そういう意味では医療ひっ迫等は起こっていませんが、今後どの程度まで感染者が増えるか分からない、そのための保健所の体制が今でもかなりひっ迫している状況で、濃厚接触者の見直し、積極的疫学調査の範囲等の見直し、やり方の工夫を随時行いながら日々の業務をこなしています。

また今後人員体制等についても考えていかなければならないと思っています。業務がやれる範囲で、また職員の負担も考えながら、感染者に対する手当等が行われるような体制整備を今後も考えていきたいと思っています。

【記者】

最近では感染者数が重要視されなくなっているが、保健所の対応は変わっていないようだが、どうか。

【市長】

感染者数で一喜一憂する必要は全くないですし、医療体制の指標である病床占有率、重症化率を見ていくべきだと思いますが、感染者が報告されると、制度上対応し、その方の健康状況のチェックも進めていかなければならないというのが法制度上の要求でもありますので、簡略化するとしてもきちっとした形でやっていくというのを前提に保健所の体制をどういうふうにしていけばいいのか。どういう形でやれば一番効率的で最も的確に保健所業務をこなしていけるのか。見直しをしながらやっている状況なので、今後とも引き続き適正化は考えていきたいと思っています。